

中日現代農業創新フォーラムに参加して

長野県 JA中野市
営農部 園芸技術課 海谷栄治

1. 「日光ハウス・地球環境」

中国側の発表で一番関心を持った内容は、現地で普及している「日光ハウス」である。二酸化炭素を全く排出せずに「自然エネルギー(太陽光と地温)」と「人力」で、野菜を中心にほぼ周年供給する栽培型である。

実際に現地や施設を視察したわけではないが、発表の内容と青島空港から威海に移動する車窓からも「日光ハウス」が、いたる所に群立し一部のハウスでは、農民がハウスの上部で「こも」(藁を編んだ保温被覆資材)をまくり上げたり、下ろしたりする姿が散見された。

「省エネルギー＝地球温暖化防止」の面から、日本の化石資源(石油)に頼った施設園芸を見直す面からも一つのポイントとなりそうだ。

2. 「栽培水・雨」

我が国「日本」もそうであるが、昨今の異常気象があたり前となり、雨が降る時は極端に降る(ゲリラ豪雨)、降らない時は全く降らない。これは、人間の食を支える農産物生産にとって大敵だ。

最近話題となっているが、世界の穀物倉庫オーストラリアでの極端な干ばつによる不作に加え、更に世界一の生産国中国もここにきて干ばつの被害が報じられ、飽食の時代にあっても輸入に頼っている日本にとっては今後、大きな影響が予測される。

日本では、海があり、山があり、適当な雨と雪が降る。加えて、先人たちが縦横無尽に張り廻らせた農業用水路、畑地灌がい施設があり安定的に農産物の生産ができる。

以前、オーストラリア内陸部の麦、米、大豆などの穀倉地帯を視察した際、長い間、河からのみの灌水に頼った農地が、「塩類蓄積障害」により農作物の栽培が不可能となり廃園化した広大な農地を見た。自然の「雨」もいかに重要かその時に痛感した。

中国の今後の農産物の安定生産に欠かせない「栽培水」をどう手配し、供給するかが今後の中国農業の重要な課題となると思った。

3. 「土・土壌・肥料・有機質」

現地の土を見て触ったところ、「有機質感」があまり感じられなかった。これは、「土」であり「土壌」ではない。今後、更に単位面積当たりの収穫量を増大するには、「土から土壌」に変える必要(土壌改良)がある。

中国国内の全てではないと思うが、必須成分である肥料や有機質(堆肥など)が不足してい

と思える。あれだけの広大な農地面積に対し、主要成分のN、P、Kはもちろんのこと、Mg、Ca、Mn、Bなどの微量元素や、安定生産、高品質、多収に欠かせない「有機質」が賄えられるか。

これまで、中国は肥料主要成分を輸出し換金してきたが、これからはそうはいかない。実際、肥料のほとんどを輸入に頼っている日本にも「肥料価格異常高騰」という大きな影響が出てきた現状、中国が本気で農産物生産の高度化や生産性向上を進めるとなれば、肥料資源や有機質資源の輸出どころではない。今後、更に日本農業に対し大きな影響が予測される。

4. 「果実」

ホテルの部屋には、必ず毎日、りんご、梨など数種類の果実が皿に盛ってある。

果樹技術専門の私からみると、色、形、大きさなどは、日本の果実と比較すると話にならない。加工仕向けとなる。ただし、食べるとどの果実もおいしい。

食生活、食文化の違いそのものであるが、中国国内では果実は高級食材とされる。

栽培農家に対し、どのような指導態勢となっているかはわからないが、栽培技術や肥培管理など少しの改善で品質は大きく変わると思われる。

あの食味と食感に、色、形、大きさをプラスするとすばらしい果実となる。機会があったら、樹園地現場や農家の「実際」を視察したい。

5. 「感想」

今回のフォーラムで感じたことは、現状、中国には日本のJA的な農業者組織がないとすることで組織の一部の賢者が机上で活動しているようで、末端の生産農家のためになっているのか不安に感じた。

そして、農民一人の年収が多くても7~8万円とは…。自慢げな発表者と農家の経営、生活実態のギャップに違和感を覚えた。

又、2日目の現地視察で訪れた野菜、肉、魚類等加工処理、パッケージセンターもあまりに完全、完璧すぎて…。

農家が実際に野菜等搬入している古いガーデントラクターや三輪自動車、農民の衣服、姿を見ると不思議な光景であった。

6. 最後に

いずれにしましても、今回のフォーラム参加は、日本、中国両国の農業関係者とのつながりができた点が大きな収穫となり、こんなに有意義な機会を与えていただいた関係者の皆様に感謝を申し上げます。